EU　果実と野菜のプラスチック包装禁止について議論

FreshPlaza　2025年2月13日

EUの1.5kg未満の果実と野菜のプラスチック包装禁止についてパネルディスカッションで議論

フルーツロジスティカ（2月4日～6日にベルリンで開催された果実展示会）でプロフード（食品流通等に係る企業グループ）とフレッシュフェルヨーロッパ（青果物物流に関する非営利団体）が主催したパネルディスカッションは、包装及び包装廃棄物規制（PPWR）と、それが欧州単一市場に与える影響を取り上げた。焦点は、1.5kg未満の果実と野菜のプラスチック包装の禁止で、製品の品質、食品の廃棄、及び市場の断片化に関し、支障が生じる可能性について懸念が示された。

プロフード代表のロベルト・ザニケリ氏が議論の口火を切り、合理的なPPWRの実施に向けて現在進めている提唱活動の重要性を強調した。同氏は、トリノ大学の農林食品科学部が実施した「果実・野菜製品と一次包装: 農場から食卓までの環境影響に関する予備的研究」に言及した。この研究では、ライフサイクルアセスメント（LCA）法を使用し、再生PET包装は、CO_2排出量、土地利用、水資源、及び食品廃棄物の削減の点で、段ボールよりも環境的に優れていることが示唆された。

ザニケリ氏は「製品のライフサイクル全体を考慮せずにサステナビリティに取り組むことはできない」と指摘し、実用可能な代替品なしにプラスチック包装を排除するリスクを強調した。

フレッシュフェルヨーロッパのジョアンナ・ナサンソン氏は、PPWRのプロセスについて、「適切な投資を可能にするためには、欧州市場全体の調和と規制の確実性を確保する必要がある」と述べた。同氏は、プラスチック製から紙ベースの生産ラインに移行する際に企業が直面する財務上の課題を指摘した。

オルトフルッタイタリア（果実と野菜の分野で国内外の活動を行う組織）のマッシミリアーノ・デルコーレ氏は、バリューチェーン全体における規制の影響に関するデータを提示し、バランスの取れたアプローチを提唱した。一方、COPA-COGECA（農業生産者及び農業協同組合を代表する団体）のリュック・ヴァノワールベーク氏は、加盟国による様々な免除リストが市場を断片化することに警告を発し、「我々は27の加盟国にサービスを提供する市場について話している。もし各国が独自の免除を設ければ、単一市場が損なわれるだろう」と述べた。

カナダ農産物マーケティング協会のダニエル・デュゲイ氏は、同様の制限が見直されたカナダの洞察を共有した。同氏は「カナダでは、これらの対策が想定している理論上の利点に疑問が投げかけられ始めている」と説明し、材料の組成よりもパッケージの機能が重要であると強調した。

また、小売業者の役割についても議論され、パッケージは製品の保存と戦略的な販売管理の上で重要な要素であるとされた。プロフードのメンバーは昨年、バランスの取れた視点を強調しつつ、PPWRに対する「非イデオロギー的でデータに基づく」アプローチを提唱した。

出典: Packaging Europe